『一期一会』

―誤りなき人生を送る為に『出逢い』と『言動』を大切に―

高井法博会計事務所所長
TACTグループ関連11社 代表
高井法博

『一期一会』この言葉は、井伊直弼の著書『茶湯一会集』の中に出てくる熟語である。『そもそも茶の交会は、一期一会といいて、たとえば、幾たびおなじ主客と交会するも、今日の会に再びかえらざることを思えば、実にわれ一世一度の会なり。』

井伊直弼は隣県滋賀県の名門彦根城主の井伊家に生まれるが、妾腹の子であったため十五年もの長い間部屋住み生活を強いられる不遇時代を経たので、自ら"埋不舎"と名づけた。しかし埋木の生活が人生苦の開眼となり、石州流茶人『宗観』として著書を出すほどに一家をなしている。

しかし我々の知る井伊直弼は、幕府の重臣大老として、当時やかましかった外交問題についてほとんど独断で欧米諸国と開港条約を結び、これに反対する者を捕縛し処刑する『安政の大獄』事件を起こし、このために、万延元年（一八六〇）三月三日、江戸桜田門外で、水戸や薩摩藩の浪人の襲撃を受けて殺害された。時に四六才の短命であった。学校で習った桜田門外の変の井伊直弼は極悪非道の大老と記憶していたが、当時幕末のペルー来航等で大変な時期、政治の総責任者大老として、周囲の人間が全く解ってないなか、大所高所の判断で開港を決断し実行していく苦しさは（歴史的に見て開港判断の正しさは証明されてはいるが）、あらゆる問題にチャレンジし、成し遂げて行く経営者とダブって見える。

経営者（変革者）は、一面しか見ない言われなき中傷・プライドを傷つけられること・社員との軋轢・その中であえて言わなければならないことを、やらねばならないことを、言いかつやる苦しさ。これらに耐えて、歯をグッと食い縛り、『革命家としての自覚』を持ち、強腕で『大変革』を図っていかねばならない。当事務所の機関紙に『一期一会』という名をつけたことからこの言葉を調べるつもりになったのだが、その中で井伊直弼という人物を、再評価再発見している。幼少時代苦労しているだけに、藩主になってから藩政で成果を挙げ、その結果時の江戸幕府で大老として日本の政治の舵取りを任された訳である。

さて一期一会の意味であるが『幾たびおなじ主客と交会するも、今日の会に再びかえらざることを思えば、実にわれ一世一度の会なり』と言う通り、いくたび茶会を催しても、そのつどこの機会は二度とない一世一度の会なのだ、同じ友人に再び会えるという保証はどこにもない。したがって一期一会は『会ったときが別れのとき』となる。あすはどうなるかわからないのだから決して軽々しく過ごせない。中途半端な言葉の使い方、ものの考え方、挨拶を始めとする身体の動作すべてに渡り、十分に準備し実意を尽くし悔いることのないようにせねばならない。一期とは生涯、一会とはただ一度の出会いということである。茶事だけに限らず、自分自身の人生の生き様を『これでいいのか』と自主的に規制でき、また、自己判断ができる。こう考えるとき、

人間ドック

健康なときほど忘れがちな自分の身体。
定期的な健診は、現代人の必須事項です。
人間ドックはあなたの健康管理の
大きな手助けとなります。

●自由に選べる6つのコース●

半日コース　1日コース　2日コース
2日精密コース　2日消化器専門コース　2日循環器専門コース

ASAHI HEALTH SCIENCE CENTER
朝日大学村上記念病院総合健診センター
〒500 岐阜市橋本町3-23
TEL. 058-251-8001　FAX. 058-251-1231

一期一会とは、悲哀を表す感情ではなく、まさに生涯にただ一度という強い、深い、ときには静かな祈り、願いがこの言葉に込められている。まさに積極的に豊かな人間的生き方を指向する茶の湯の香り高い思想を知ることができる言葉である。

出逢いの重要性

現在までの自分の人生を振り返ると、本当に多くの人と出逢い、また別れてきた。果たしてその何人とこの覚悟で出逢いを持つことができただろうか。

人と人の出逢いは運命的である。もしあのときあの人と出逢っていなかったら、あの時あのことを教わっていなかったら、自分の人生はまるで違ったものになってしまっていただろうと思うことがしばしばある。幸いにも何もない中から、本当に多くの方々から助けられ、生かされてきた幸せを感じる。しかし五十才になった現在、とりわけ今という時間を大切に思う。一つ一つの行動について今までの経験をもとに、できる限り誤りなき判断を行い、有意義な社会性ある、価値ある人生を送りたいと思う。

出逢いを人脈にまでする極意は、真に相手のことを思い、言うべきことは言い、聞くべきことは聞く。また相手にとって価値ある自分を創ることや、調子にのらない謙虚な姿勢で接する等、まさに『一期一会』の精神で真剣にまじめに生きることだと思う。打算で相手に近づこうと思っても、相手は見事な嗅覚でこれを見抜く。

柳生家の家訓に、

「小才は縁あるを知らず、縁を活かさず、
中才は縁あるを知って、縁を活かさず、
大才は縁あるを知って、縁を活かす。」

とある。小才、中才、大才とは記憶力がよいとか知識があるとかいうのではない。その時々の言動等の生き様であり、知恵であり、思想の高低をいう。大才は『縁』を知りこれを活かす。『縁』とは相手の存在を尊重することである。小才にはそれができない。人生の極意は人と人との出逢いをどう活かすかに尽きる。

メモする習慣の重要性

六月のＴＡＣＴ例会で、人材育成研究所の山口久雄先生から、人材育成の基本的条件として『こまめにメモする習慣の効用』というお話をお聞きした。まさにメモをとることは大変重要である。せっかくのすばらしい話や出逢いも人はすぐ忘れてしまう。二十分後に四二％、一日後六六％、二日後にはなんと七二％を忘れるというから誠にもったいない。一度しかない人生の中で色々な人との出逢いや講演、本等で教わったことを聞き流していたのでは身につかない。人生はまさに『一期一会』である。

私自身今日通った道を明日も通ることができないのが人生であると考えている。だから自分の師の教え、尊敬する人のふるまい、あるいは人にお逢いしたり話を聞いたり、本や雑誌を見る等その瞬間は、生涯に再び訪れない最期のつもりで、真剣勝負で接し何かを吸収しようと常に必死でメモしている。そしてその話を具体的行動とのつながりで考え、自分の心の中にしっかり落とし込み、実践行動につなげて成果とともに自分自身に成功体験として体得させ、人間としての重みを持たせ思想人格として身につけていかねばと思っている。

しかし色々なセミナーを主催したり、私自身講演させていただく機会があるが、居眠り、私語、態度の悪さには情けなくなりどなりつけたくなることがある。こんな者は全く自分勝手で自分を過信し、慢心し自分の物差しで発言や行動を重ねており、決して大きな仕事は任されないし、本物の人からの信頼はない。

経営者は孤高である。たった一度しかない人生、繰り返しのきかない生涯であることを思うとき一つ一つの仕事、出逢い等あらゆる出来事、瞬間瞬間、一日一日をまさに『一期一会』の精神で大事に誠心誠意、真剣勝負で送ろうと思う。

やすらぎの霊場　　景勝の地

高野山　　真言宗　　法華寺

美濃三弘法第二番札所．美濃新四国八十八ヶ所第六十二番札所．新四国三十三観音第十五番札所．東海白寿三十三観音第三十二番札所

＜通 称＞　三　田　洞　弘　法

自然の庭園をながめながら精進料理はいかがですか。　要予約

岐阜市三田洞131　　TEL（058）237－3812